

イングランドにおける ナショナル・カリキュラムと評価

Justin Dillon

Outline

- 1988年教育改革法
- 評価と試験に関する作業部会 (TGAT)
- ナショナル・カリキュラム
- ナショナル・カリキュラム科学
- 科学の実践的活動
- TIMSS や PISAの影響
- エビデンスに基づく政策立案

1988年教育改革法

- ナショナル・カリキュラム
- 自主的学校運営
- 国庫補助学校
- シティーテクノロジーカレッジ
- 学校選択の自由化
- 地方自治体の管理から切り離されたポリテクニク

理論的説明

- 教育改革法(1988)
 - 教育を改革するために市場を活用するという初期の試み
 - 選択
 - 多様性
 - 標準化
 - 情報

教育改革法の重要な特徴

- 基本カリキュラム:
 - 宗教教育
 - コア(中核)教科 (英語, 数学, 科学)
 - コア(中核)ではない教科 (全部で7教科)
- 4つの“キー・ステージ”
(5-7歳, 7-11歳, 11-14歳, 14-16歳)
- コア教科は、(全ての)各キー・ステージの終わりで評価される
- コアではない教科は、幾つかのキー・ステージにおいて評価される

評価と試験に関する作業部会 議長：ポール・ブラック (1987)

全ての教科に対して以下の勧告

- 教師による適切な評価
- 外部試験 – 標準到達課題 (SATs)
- 10段階の到達(目標)レベル

評価と試験に関する作業部会 (TGAT)

- (二者択一の)基本的な選択:
 - 年齢依存型
 - 各年齢時において評価される“ベンチマーク”
 - 年齢非依存型
 - 年齢を超えた到達レベルのリンクシステム
- 重大な要因
 - 技術的な実現可能性
 - 生徒たちへの影響

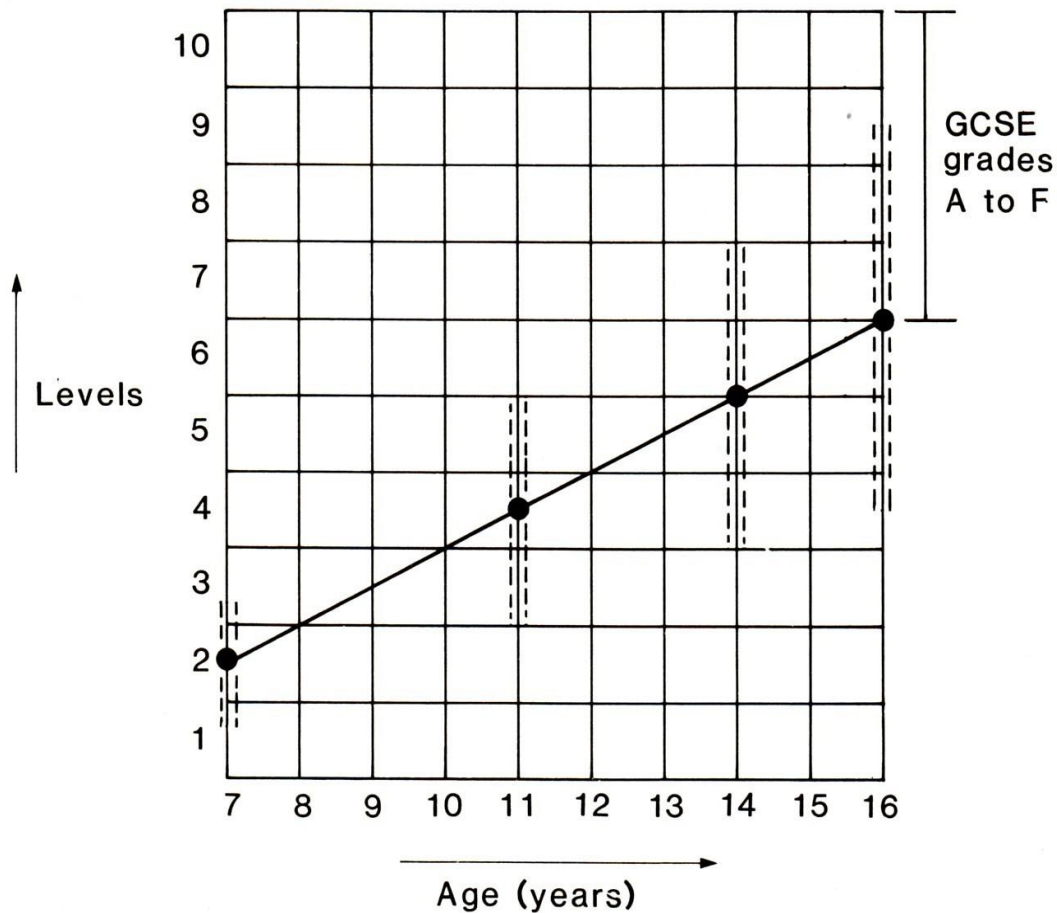
年齢依存型のレベル

- わかりやすい
- 馴染みがある
- 生徒のモチベーションに対して大きなマイナスの影響
- 向上というより、むしろ“固定的な”能力観を助長する

年齢非依存型のレベル

- 心理学では...
 - ピアジエ (Shayer et al., 1976; Shayer & Wylam, 1978)
 - パスカル・レオーネ
 - ケイス
 - SOLO (Biggs & Collis, 1982)
 - ファン・ヒーレ
 - CSMS (Hart, 1981)

TGATの評価モデル



キー・ ステージ	年齢	レベル
1	5-7	1-3
2	7-11	2-6
3	11-14	3-8
4	14-16	4-10

評価の(権限)範囲

到達目標：生徒たちが何を知って、理解すべきか、また、知識やスキルを習得して何ができるべきかを示した明確な具体的目標。同年齢で、能力や発達レベルの異なる子どもたちに提供される。

学習プログラム：生徒たちが到達目標に達して、それを超えることができるために必要とされている内容。カリキュラムの全体的なアウトラインが組み込まれた、全ての生徒たちにとって教えらるる必要のある(学習)内容やスキル、プロセスに関する詳細な記述。

反復的に展開しながら学習プログラムから到達目標へと進行

イングランドのナショナル・カリキュラム

- 非常に明確に具体化されたカリキュラム
- 強力なアカウンタビリティとリンクした外部評価による強固なシステム

ナショナル・カリキュラム科学作業部会 1987/1988

- 議長: ジェフ・トンプソン
- (大学の)研究者 2~3名
- (初等と中等の)理科教師 4~5名
- (初等と中等の)校長 2名
- 地方(教育)当局アドバイザー 2名
- 科学カリキュラム専門家 1名
- 実業家 1名
- 勅任視学官 (HMI) 1名

1988-91 ナショナル・カリキュラム (NC) と 評価と試験に関する作業部会 (TGAT)

- TGATの評価モデル: 教師により点検され、形成的で、段階的で、緩やかな評価基準を提案
- ナショナル・カリキュラム科学には、4つのキー・ステージ (KS)を通して10段階の到達レベルが示された22(後に17)の到達目標(ATs)があった。
- GCSE試験委員会は、使いにくいという理由で拒否した。
- キー・ステージ1～3の教師によるナショナル・カリキュラムの試験は、批判の対象となった。
- ナショナル・カリキュラム科学は4つの到達目標(ATs)に減少。
- キー・ステージ1～3のナショナル・カリキュラムの試験は、筆記試験(SATs)と(‘実践的活動’に対する)教師の評価で組み合わせられるようになった。

科学のヒエラルキー(階層性)

1. 光は、(光以外の)別の発生源に由来することを知っている。
2. 光が中を通過できる物質と通過できない物質があり、光が通過できないときには影が形成されることを知っている。
3. 光は方向を変えられることや、光沢のある表面には像が形成されることを知っている。
4. 光が直進することを知り、そのことを利用して影の形成を説明することができる。
5. 光がどのように反射されるかを理解している。
6. プリズムやレンズがどのように光を反射・分散させるのかを理解している。
7. 単純な光学装置がどのように作用しているのかを記述することができる。
8. 異なる媒質における速さの違いの影響として反射を理解している。
9. 光の分散、干渉、回折、偏光のプロセスを理解している。

到達目標(AT)13 エネルギー

学習プログラム	到達目標 生徒たちは・・・べきである
キー・ステージ1 児童は、自分たちが食べている食べ物やなぜ食べ物を食べているかを考えるべきである	レベル 1 活動するためには食べ物が必要であることを理解する
キー・ステージ2	レベル 2
キー・ステージ3	レベル 3
キー・ステージ4 生徒たちは、あらゆる環境でエネルギーが変換される方法を調査する機会を持つべきである ...	レベル 4 エネルギーを供給するために使用される燃料が存在することを 知る
	レベル 7 エネルギーは伝導、対流、放射により移動することを理解する
	レベル 10 エネルギー変換を説明するためにエネルギー保存の法則を使用することができる

ナショナル・カリキュラム科学の変遷

- 1989年 (22 の到達目標)
- 1991年 (4の到達目標)
- 1995年 (20%の削減)
- 1999年
- 2004年
- 2006年
- 2008年
- 2013年

ナショナル・カリキュラム (NC) における実践的活動

- 1989年 NC初版: 2つの構成要素の1つであるAT1(もう1つは、他の16の到達目標)。「科学の探究活動」と呼ばれ、調査の側面が強かった。
- 1991年NC改訂版: AT17が組み込まれたSc1。到達目標は5つに削減され、最終的に4つになった。「科学的調査研究」と呼ばれ、流動的な解決処理の色合いが強かった。
- 1995年 ダーリング卿による見直しの結果、NCは簡略化され、Sc1 は「科学の実験・調査研究」となった。
- 2000年に改訂されたNCでは、Sc1に「考え方や証拠」といった要素がさらに組み込まれ、「科学的探究」となった。
- 2005年 キー・ステージ(KS)4が改訂され、AT1 は「科学がどのように作用するか」となった。
- 2008年 KS4に合うようにKS3が改訂された。

TIMSS や PISAの影響

- NCが作成された初期の頃は、国際間で比較できるデータはほとんどなかった。今では、PISAやTIMSSの調査やRobin Alexander, Andy Green, Bill Schmidtに代表される比較研究も多くある。
- 他の国・地域 (例えば香港)は、国際的に高い水準を示してきた。
- 大臣たちは、イギリスは他の国や地域に追い越されているという懸念によるアプローチを支持していた。

TIMSS や PISAの影響

“私たちは、国際的な成績一覧(リーグテーブル)やナショナル・カリキュラムが標準を下回っていることについて十分に認識してきた。そうしている間に、経済や科学技術の変化は急速に加速し、(この国の)子どもたちは取り残されてしまっている。これまでのカリキュラムは、私たちに未来の準備をさせなかった。私たちは、方針を変更しなければならない。我々の見直しは、世界で最善の学校システムを検討し、世界に通用するカリキュラムをもたらすことで、教師や保護者、子どもたちが、どの年齢で何を学ぶべきかを知るよう手助けするであろう。”

(マイケル・ゴーヴ教育大臣, 2011年)

エビデンスに基づく政策立案

- 現実的に!: もし有力な証拠が得られなくても、何らかの判断がなされ政策は決定されるであろう。
- 準備を!: 証拠は集められ整理するのに数年を要するが、政治家は1～4年以内の結果を要求する。
- 強靱に!: 幾つかの証拠は、他のものよりも有力である。
- 柔軟に!: 全てのことを試そう。
- 気を抜かずに!: 予期せぬ結果に対して。